

取引条件見直しによる  
物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書

2006年3月15日

社団法人日本ロジスティクスシステム協会  
ロジスティクス環境会議  
省資源ロジスティクス推進委員会

# はじめに

---

ロジスティクス活動では、化石燃料、木材、紙などの天然資源が使用されており、極めて膨大な量に及びます。省資源・省エネルギーの視点から物流の環境負荷を低減するため、共同物流、モーダルシフト、省資源包装等の活動を促進することが必要です。省資源ロジスティクス推進委員会は、ロジスティクスにおける天然資源の使用量を可能な限り抑制する「省資源ロジスティクス」の実現を目指しています。

ロジスティクスを含めた企業活動には、環境対応をはじめとするCSR（企業の社会的責任）や経済的な側面から消費者利益を拡大するため、他社とのビジネス（主に物流）プロセスを可視化したうえで、取引の透明性を高め、環境負荷低減と物流コスト低減の実現に向けた物流改善施策の継続的な検討、実行が求められます。こうした基本的な考え方のもとに、取引条件を見直すことによる物流のCO<sub>2</sub>等の環境負荷低減、輸送コストや道路交通に与える影響を調査し、その結果を関係者で共有することが重要であるとの委員会メンバーの共通認識が生まれした。

そこで、特定商品の物流プロセスに注目し、取引条件の見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査を行った結果、製造業・流通業・物流企業が抱えている、取引条件と関連する物流の問題点を浮き彫りにすることができました。この成果を踏まえて、一層のロジスティクスの環境負荷低減、コスト削減を目指すため、製造業・流通業・物流企業間の販売物流における取引条件見直しの推進シナリオを提案いたしました。

今後、省資源ロジスティクスを実現していくには、調達から生産、販売までの全ての物流プロセスに係わっている企業が、あらゆる立場、側面から取引条件の見直しをはかり、物流改善を推進することが必要となります。

本委員会で取りまとめた「取引条件見直しの推進シナリオ」が、少しでも関係者の取引条件の見直しのきっかけになり、物流活動の省資源・省エネルギーに活用いただければ幸いです。

社団法人日本ロジスティクスシステム協会  
ロジスティクス環境会議  
省資源ロジスティクス推進委員会  
委員長 山本 明弘

## 省資源ロジスティクス推進委員会 2005 年度活動報告

---

	開 催 日	時 間	会 場
第 10 回	2005 年 6 月 2 日 (木)	15:00 - 17:00	浜松町東京會館
事例研究会	2005 年 8 月 23 日 (火)	10:00 - 12:00	浜松町東京會館
第 11 回	2005 年 9 月 27 日 (火)	10:00 - 12:00	浜松町東京會館
第 12 回	2005 年 12 月 27 日 (火)	15:00 - 17:00	浜松町東京會館
第 13 回	2006 年 1 月 27 日 (金)	15:00 - 17:00	芝パークホテル

## 省資源ロジスティクス推進委員会 委員

No.		会社名	氏名	所属・役職
1	委員長	(株)日通総合研究所	山本 明弘	物流技術環境部 環境グループ 担当部長
2	副委員長	(株)日立物流	軽部 熊次郎	ロジスティクスソリューション統括本部 エンジニアリング開発本部 リサイクルシステム部 部長
3	委員	青山学院大学		
4	〃	東京海洋大学		
5	〃	東京海洋大学		
6	〃	流通経済大学		
7	〃	愛知陸運(株)		
8	〃	旭運輸(株)		
9	〃	アサヒロジ(株)		
10	〃	味の素(株)		
11	〃	伊藤ハム物流(株)		
12	〃	(株)イトーヨーカ堂		
13	〃	ウベパレットレンタルリーシング(株)		
14	〃	NECロジスティクス(株)		
15	〃	オリンパスロジテックス(株)		
16	〃	カート・サーモン・アソシエイツ・ インコーポレイテッド		
17	〃	カゴメ(株)		
18	〃	加藤産業(株)		
19	〃	川崎陸送(株)		
20	〃	北九州市		
21	〃	キッコーマン(株)		
22	〃	光英システム(株)		
23	〃	国分(株)		
24	〃	コマツ		
25	〃	佐川急便(株)		
26	〃	三岐通運(株)		
27	〃	サントリー(株)		
28	〃	新日本製鐵(株)		
29	〃	鈴与(株)		
30	〃	第一貨物(株)		

No.		会社名	氏名	所属・役職
31	〃	大成建設(株)		
32	〃	ダイハツ工業(株)		
33	〃	(株)豊田自動織機		
34	〃	豊田スチールセンター(株)		
35	〃	トヨタ輸送(株)		
36	〃	トヨフジ海運(株)		
37	〃	(株)ニチレイロジグループ本社		
38	〃	日清オイリオグループ(株)		
39	〃	日本貨物鉄道(株)		
40	〃	日本水産(株)		
41	〃	日本通運(株)		
42	〃	(株)日本能率協会総合研究所		
43	〃	日本郵船(株)		
44	〃	ハウス食品(株)		
45	〃	日野自動車(株)		
46	〃	富士通(株)		
47	〃	(株)フジトランスコーポレーション		
48	〃	プラネット物流(株)		
49	〃	マクセルロジスティクス(株)		
50	〃	松下電器産業(株)		
51	〃	三菱化学物流(株)		
52	〃	三菱倉庫(株)		
53	〃	安田倉庫(株)		
54	〃	ユニ・チャーム(株)		
55	〃	リコーロジスティクス(株)		

# 目次

---

第1章 調査概要	1
1. 調査の経緯と目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査フロー	2
4. 調査内容	4
第2章 既存文献による取引条件見直しとその効果	7
1. 既存文献で指摘されている課題等	8
2. 取引条件の見直しによる効果	17
第3章 委員会メンバーの物流実態と取引条件	19
1. 調査概要	19
2. アンケート調査結果の概要	22
3. 調査結果（アンケート調査）	28
第4章 加工食品及びパソコン・家電製品の物流実態と取引条件	47
1. 調査概要	47
2. 物流における取引条件の問題点、課題の概要	49
3. 取引条件等の実態把握、整理（ヒアリング調査結果）	55
第5章 環境負荷低減のための取引条件見直しシナリオの検討	69
1. 取引条件見直し案の検討	69
2. 取引条件見直しによる効果推計	73
3. 取引条件見直しの推進シナリオ	79